

2024/8/1

関係各位

Far East Group

会長 大嶋 謙嗣

会報八月号 世界観を掴む(その三)

目次

- ・ 世界観(陰陽相補原理)
- ・ 宇宙の秩序
- ・ 人間の秩序
- ・ 無限から有限へ
- ・ 修身と守破離

●世界観(陰陽相補原理)

世界観とは、世の中の根本的な原理であり、形而上も形而下も全てを統一して、成長・発展を指向する指導原理である。

この世界観を掴む為に、生命の三つの段階の世界を通して、世の中の構造を眺めてみた。第一段階の世界は、無限の大宇宙。第二段階の世界は、無機、変化、有限の世界。第三段階の世界は、有機、生物、有限の世界。これら三つの世界は、それぞれが別個にあるのではなく、お互い入れ子になっている。そして、一つの世界はそれより小さい世界の隅々にまで入り込んでいる。

陰陽相補原理は、あらゆる現象が陰陽の秩序の展開であることを会得し、健全なる生活を設計する為の物心一如の指導原理である。それは、この大宇宙の秩序をあらゆるものに当てはめ、全てを陰陽の歯車として見て、物事の曲成に当たり道を見出す方法である。陰陽相補原理の根本的要素は陰と陽である。言い換えれば「宇宙万物は陰陽より成る。万物は陰陽に分類することができるといふことである。陰陽とは「一見すると対立や矛盾するように見えながら、よく見ると実は相補い、相親しみ、相和している結びという対立」のことである。陰陽は、相対し相補い相和す。陰陽の秩序による万物生成化育のはたらし、それが宇宙の造化であり、調和(動的均衡)であり、秩序(対立・相補)である。

結局、大宇宙という大生命が根本であり、そこに陰陽相補原理に基づく対立・相補という秩序構造という動的均衡があり、その働きによって万物万象は生まれ、変化し、滅し、また大宇宙・大生命へ還り：：という循環である。

人間は天地の間に生まれ、天地陰陽の理法(秩序)の中で生きる。従って、人間のあらゆる活動も、陰陽相補原理の展開である。

陰陽相補原理の特徴を再確認しておく。

- 一、森羅万象は陰陽で展開する。
 - 二、陰陽は不断に生じ、相関往来し、滅する。
 - 三、陰（遠心・拡散）と陽（求心・凝縮）は反対の性質を持つ。
 - 四、陽は陰を、陰は陽を牽引。推進する。
 - 五、陰が陽より強ければ陽を引きつけ、弱ければ陽に引きつけられる。
 - 六、陰は陰を、陽は陽を排斥する。その排斥力は、その差に反比例する。
 - 七、純粋な陰又は陽なる物事は存在しない。
 - 八、完全な中性なるものは無い。必ず陰陽どちらかを多い比率で有する。
 - 九、森羅万象は、陰陽両性を持つ微細なものの複雑な集合である。
 - 十、森羅万象とは、その時の動的均衡を示す陰陽の集合体に過ぎない。
 - 十一、陰極まれば陽生じ、陽極まれば陰生ず（極まれば反転する）。
 - 十二、万物はその内奥に陽を抱き、外側に陰を負う。
- この原理とその特徴が、宇宙の秩序や人間の秩序を形作る根本となる。

●宇宙の秩序

- ①始めあるものに終りあり↓始まりは終わりへ向かう。一つが終われば次が始まる。
 - ②表あれば裏あり↓物事は全て一長一短である。
 - ③この世に同じものは無い↓全ては変化していくから
 - ④表大なれば裏も大なり↓調和というバランスに向かうから
 - ⑤変化（運動・調和・均衡・崩壊・死生）は全て陰陽の結び又はその分化である
 - ⑥絶対・無限・永遠なるものは、二つの相反する陰陽を生む↓太極から両儀へ
 - ⑦相対・有限・変化は、絶対・無限・普遍からの産物である↓部分と全体の関係
- 以上の七つの特徴の下に、東洋のあらゆる宗教・思想・技芸・学術・文明は展開していく。

●人間の秩序

- ①人間の精神は無限であり、肉体は有限↓精神の無限性を担保するのは独創性
- ②人間は絶対の正義を持ち、悪も持つ↓悪を出さないようにするのが勇智仁・修身
- ③人間は永遠・無限の愛を持ち、刹那的・有限の力も持つ

従って、**人の使命とは、は陰陽相補原理に則り、精神の無限性を発揮して、己の信念や勇智仁を断行・具現化する為に、好きなことを独創的にやり抜き、しかも、多くの人に永く喜ばれるような、楽しく面白い一生を送ることにある。**これは幸福の一つの定義であり、世界観から敷衍された人の道である。中庸の説く「誠は天の道なり。それを誠にするは人の道なり」も同じである。陰陽相補原理に則り、宇宙の意志である造化（万物生成化育）、即ち無限の精神（信念・愛・仁義・智仁勇・誠）を、この世界で断行し具現化を図るのである。

「造化」が無限の宇宙のはたらきである。それを敷衍した「愛の断行とその具現化」が人間の使命である。これは、何億年も前の話、神話の中の話ではなく、今現在も日々刻々、毎秒刻々起こっている事実である。例えば私たちが、絵を描こうとか、新しい家を建てようとか、新しい事業を始めようとか思ったとする。これは精神のはたらきである。それを実行（断行）し、やがて実現（具現化）される。絵も家も事業も、すべて精神の世界からの産物である。私たちは無限から有限にする精神を持っている。それが自由意志である。精神という無限の世界が、この有限の世界を生み出している。無限の精神を有限の世界に具現化する方法、それが道である。

●無限から有限へ

無限永遠の世界というものは、全き一である。もし二つあれば、それは無限ではなく、無限の半分の有限の世界ということになる。精神・魂の世界も無限で永遠であれば、それは大宇宙・大生命・全き一の別名ということになる。

物質的な世界と精神的な世界の同一性を見極めるのが「世界観」である。「世」は無限の時間、「界」は無限の空間を意味する。宇宙の「宇」は無限の時間、「宙」は無限の空間のことである。

精神、時間、空間は同じもので、無限の世界（形而上）の別名である。精神そのものは物質的に計測できる力を持たないから、精神ではコップ一つ動かせない。また、精神には姿がないのだから、年を取ったり、大きくなったり小さくなったりすることはない。大きくなったりするのは肉体とその知識や経験値で、それらは有限なものである。精神とは、その経験を可能ならしめるものである。

有限の世界（形而下）は、どれだけ大きくても沢山あっても、それは無限の一部ではない。無限の世界に包まれて、その中に有限の世界がある。私たちはこの広大無辺の大宇宙・大生命の子であり、無限・絶対・神の相続者である。忘れてならないのは、所謂私たちが暮らしているこの世界は、有限で不自由で対立矛盾に満ちた儂い世界でもあるけれど、私たちの本体である精神は、この有限の世界より遥かに大きく、無限であるということである。肉体の中に精神があるのではない。逆である。肉体は精神に包まれているのである。この大宇宙・無限の世界・神・愛・精神・魂が、この有限・物質世界を創っている。私たちの有限の世界は、無限の世界に支えられている。私たちには精神という無限を与えられている以上、できないことは何もないはずである。ただ、私たち人間が生きるこの世界は、物質文明かつ精神文明の世界である。私たちの五感はその物質的なものを感じるので、この世界は物質文明優位である。だから、無限の精神（陰）を、知仁勇を以て有限化（具現化）すること（陽）が、この世界での人間のはたらきとなる。

●修身と守破離

人間は精神と肉体を与えられている。精神は無限であり、肉体は有限である。私た

これはこの無限性と有限性が融合した存在である。

自由である為には、無限性、永遠性、絶対性への帰依と服従が必要である。そして、自らの無限性（精神・愛・誠・勇知仁・信念）を、この世界に有限なるものとして具現化していく。それが陰陽相補原理の展開であり、宇宙の秩序であり、人間の秩序であり、道である。この世界は、自らの無限性を有限化し、具現化する場所として存在している。自分の信念を具現化していく場所なのである。

無限と有限を繋ぐものは何か。「大学」の八条目はこう言っている。「格物・致知、誠意・正心、修身、齋家・治国、平天下」。格物・致知とは、宇宙の秩序や生命の原理の会得である。誠意・正心とは、自らの心をそこに合致させることである。ここまではまだ形になっていない次元、つまり形而上の話であり、無限界のことである。そして修身。これは日常生活に秩序を持たせるということである。ここに来て初めて日常の具体的実践となる。つまり、形而上から形而下へと転換するのである。その後の、齋家・治国、そして平天下は、有限界における宇宙の秩序の具現化、精神（信念・愛・誠）の断行・具現化の例である。従って、宇宙の秩序、生命の原理を自覚して日常生活に秩序を持たせていくこと（修身）こそが、根本となる。

「守・破・離」という観点から眺めてみる。宇宙の秩序、生命の原理を把握し、そこに日常生活の秩序を構築していくこと（格物・致知・誠意・正心。修身）が「守」であり、そこからの展開や応用（齋家・治国・平天下）が「破」である。志や信念や愛を自在に断行し、具現化しながら、独自の境地を拓いていくことが「離」である。

今回はここまで。次回は陰陽相補原理の応用・展開に焦点を当てる。
今月も健康と健闘を。

